

専門図書館の魅力を知る

アウトライン

1. はじめに
2. 専門図書館の概要
3. 専門図書館の特徴
4. レファ協DB事業に参加する意義
5. まとめ

1. はじめに

- ・ 専門図書館の魅力を知ってもらうために、まず、専門図書館の概要と特徴について説明する。
- ・ 次に、専門図書館の概要と特徴を踏まえて、専門図書館がレファレンス協同データベース事業に参加することの意義を示す。

2. 専門図書館の概要

2.1 定義

- ・ 現象面では、「蔵書の主題範囲と専門性の水準や利用者の限定性」。理論的には、「事業の執行機関としての組織の業務実施の支援機能として設けられ、組織の構成員に対するサービスを任務とし、組織の経費負担によって維持」される。（『図情学用語辞典』¹⁾）
- ・ 組織の目標を追求する上で、そのメンバーやスタッフの情報要求を満たすため、営利企業、私法人、協会、政府機関…が設立し維持し運営する図書館。コレクションとサービスの範囲は、上部もしくは親組織の関心のある主題に限定される。（『ALA図情学辞典』²⁾）
- ・ 定義を整理すると…
 - ① 主題の範囲が限定的である。
 - ② 特定組織（親機関）の事業支援を目的としている。
 - ③ 利用者の範囲が限定的である。

2.2 機関種

- ・ 親機関の種類³⁾（機関種）により7つに区分できる。
 - ① 国・政府関係機関…国・国立研究開発法人内に設置された図書館、NDLの支部図書館
 - ② 地方議会・地方自治体…地方議会図書室、地方の各種行政組織内に設置された図書室
 - ③ 美術館・博物館
 - ④ 大学…学部・研究科・附属研究所内の図書室、医学・薬学など単科大学の図書館
 - ⑤ 公益法人…一般・公益の社団・財団法人など
 - ⑥ 民間企業
 - ⑦ 国際・外国政府機関

2.3 経営資源

- ・スタッフ数 (正規・非正規合計)

(表 省略)

病院を親機関とする専門図書館を除き、いずれの機関種も2-4名が最も多い状況 (合計値を母数とすると40.1%) であった。

- ・所蔵図書冊数

(表 省略)

国・政府関係機関と病院を親機関とする専門図書館を除き、いずれの機関種も10,000冊以上-50,000冊未満が最も多い状況 (合計値を母数とすると36.9%) であった。

- ・資料購入費

(表 省略)

国・政府関係機関と病院を親機関とする専門図書館を除き、いずれの機関種も100万円未満が最も多い状況 (合計値を母数とすると50.5%) であった。

出典：発表者が2019.11-2020.1に実施した「専門図書館における連携・協力に関する調査」の有効回答機関 (666機関) の属性

2.4 連携・協力

- ・専門図書館と他館種 (公立・大学) との実施状況⁴⁾

- ・666機関のうち388機関 (58.3%) で連携・協力を実施
- ・実施率の高い職務…レファレンス質問回答 (254機関、65.5%)、文献複写 (234機関、60.3%)、相互貸借 (217機関、55.9%)
- ・レファレンス質問回答…「都道府県立図書館」 (33機関、13.0%) から協力を「受けている」機関 (20機関、60.6%) が多い。
- ・「都道府県立図書館」と連携・協力している機関…議会図書室 (22機関、66.7%) が多い。

- ・専門図書館と他館種 (公立・大学) との課題⁴⁾

- ・連携・協力を実施する388機関のうち、153機関が自由記入により課題を記入
- ・「各種ルールや規則を整備するなど体制構築の必要性」 (13機関、8.5%) が指摘された。

3. 専門図書館の特徴

- ・『専門図書館探訪：あなたの「知りたい」に応えるガイドブック』青柳英治・長谷川昭子 共著、勉誠出版、2019、129p
- ・一般の人たちが利用できる公開型の専門図書館61館を対象に、各館が提供する特徴的なサービスを、写真も含め1館を見開き2ページで紹介するガイドブック
- ・掲載館の紹介を通して得られた専門図書館の特徴、特徴を踏まえた専門図書館活用のコツも掲載

① 親機関の刊行物を収集し公開

親機関が刊行する研究成果物や調査報告書を収集し、それらをウェブサイトで全文公開

例：海洋研究開発機構 機関リポジトリ

https://www.jamstec.go.jp/jir/infolib/meta_pub/G0000002REP

② グレイリテラチャーを収集

特定分野のパンフレット、ちらしなど流通ルートに乗らない一般に入手困難な資料を収集

例：大阪府立男女共同参画・青少年センター 情報ライブラリー

「日本ウーマンリブ史原資料」 <https://www.dawncenter.jp/libsrch/>

③ 貴重書コレクションが充実

寄贈などによって所蔵するまとまりのある貴重書を、デジタル化してウェブサイトで公開

例：大倉精神文化研究所 附属図書館 「タゴール文庫」

https://okuraken-lib.opac.jp/opac/Book_list?lno=80&lang=japanese

④ 独自に分類体系を整備し図書を排架

特定の主題分野の資料を重点的に収集するため、NDCではきめ細かな分類が困難。独自の分類体系を整えて図書を排架。

例：味の素食の文化センター 食の文化ライブラリー

<https://www.syokubunka.or.jp/about/guide/library.html>

⑤ 所蔵資料のアクセス手段の確保に注力

所蔵雑誌の記事・論文が検索できる書誌DBを作成し、所蔵資料にアクセスしやすい環境を整備

例：阪急文化財団 池田文庫 蔵書検索

https://ikedabunko.opac.jp/opac/Advanced_search

⑥ 児童・生徒向けのサービスも充実

児童・生徒向けの図書を揃えて、夏休みなどに自由研究や宿題に役立つ図書の展示、読み聞かせを実施

例：トヨタ産業技術記念館 図書室 <http://www.tcmit.org/exhibition/library.html>

⑦ 所蔵資料を活用したイベントの開催

所蔵する貴重書の展示、関連図書を解説したパネルを陳列

例：日本カメラ博物館JCIIライブラリー 収蔵資料展

<https://www.jcii-cameramuseum.jp/library/>

⑧ 利用者同士の交流や学びの「場所」を提供

親機関の研究者などを講師として招き、講演会などを開催して、相互交流や利用者の知識習得の場所を提供

例：（公財）日本交通公社 旅の図書館 たびとしょCafe

<https://www.jtb.or.jp/tabicafe/>

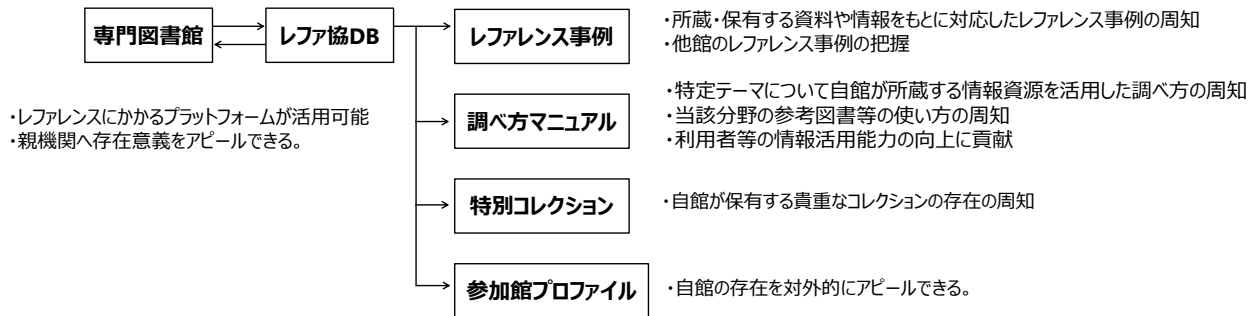
→ 利用者は、専門図書館が所蔵する情報資源をもとにしたレファレンスサービスを活用することで専門的かつ正確な情報が得られる。

4. レファ協DB事業に参加する意義

・レファレンス協同DB事業の目的⁵⁾

公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館等におけるレファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、並びにデータをインターネットを通じて提供することにより、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動を支援すること。

・専門図書館から提供されるデータ



5. まとめ

- ・専門図書館の魅力は、特定テーマについての資料・情報を持っていること。
- ・レファレンスサービスは、他館種の図書館員、外部利用者には有益なサービスとなる。
- ・レファレンス協同データベースは、そうしたサービスを広く活用してもらえる機会を提供する。

参考文献

- 1) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典 第5版』丸善出版、2020, p. 135.
- 2) Heartsill Young編, 丸山昭二郎ほか監訳『ALA図書館情報学辞典』丸善, 1988, p. 132.
- 3) 専門図書館協議会調査分析委員会編『専門情報機関総覧』では、機関種を12に分けて収集したデータを集計している。
- 4) 青柳英治「各館種における専門図書館との連携・協力の実施状況」『図書館界』74(5), 2023. 1, p. 265-284.
- 5) 「レファレンス協同データベースとは？」
<https://crd.ndl.go.jp/jp/library/index.html> (参照日:2023.2.19)